

第 146 回医療ビジネス研究会のご案内

経営(学)分野で使われている「ニッチ戦略」(:大手や他社が出てこない市場で活動する)は生物学用語のエコロジカルニッチ(生態的適所)に由来しているようですが、生物は個体および単一種だけで生存しているのではなく、環境と密接に関係しながら多くの他の生物と共存・共生しています。その際の環境とは気候や地質などの非生物的な環境と同一種を含む全ての生物的環境を対象としています。

ヒトと環境におきましても同様で近年ではゲノム研究やコンピュータの性能向上により、様々な環境との関係を解明する試みが進展しています。特にこの10年間で革新的な遺伝子解析機器が普及し、ヒト、動植物、細菌(微生物)から取得された遺伝子情報量が爆発的に増加し、ヒトの生体試料中に存在する細菌の集団(:細菌叢(さいきんそう)、マイクロバイオーム)のゲノムDNAをまとめて解析する研究が大きく進展しています。

ヒトマイクロバイオームは皮膚、口腔、鼻腔、膣内、腸内などに有りますが、とりわけ腸内(糞便)細菌叢にはヒトの細胞数に近い約 40 兆個の大量の細菌が存在するとされています。細菌のメタゲノム解析や細菌が生成される代謝物を分析・分類し、それらを介した腸と様々な臓器・組織間の相互作用を解析する事で、病の予防や臨床医学に迅速に反映されることが期待されています。

今回はみらか中央研究の西脇氏をお招きし、マイクロバイオーム研究の最新動向と疾患との関連を概説し、未病管理等の社会実装や事業化の可能性についてお話を伺います。マイクロバイオーム研究の進展は罹患する前に生活習慣を改め適切な対応をするなど、体調を悪くする前の健康づくりへの選好を高め、創薬や食品開発、検査などへの応用を目指す事業者の活動を活性化させる事が期待されています。少子化、人口減少に加え、日本の科学研究が失速し、低調な起業意欲等、多くの分野で競争力が低下し「失われた20年」が30年になり、日本経済の低迷が常態化するなか、世の中を大きく変える新たな産業分野としての期待値も大きくなっています。

従来のように病気が判明してから対応するのではなく、事前に体調悪化を予兆し適切に対処する健康行動(未病管理)の浸透は人に優しい社会の到来であり、新しい健康パラダイムでもあります。重篤化した病人を多く抱える社会と比べると、結果として、財政にも優しい健康社会となるのではないのでしょうか。福祉事業関係者はもとより、健康増進を考える事業者には是非ともお聞き頂きたくご案内申し上げます。

2019年10月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「健康イノベーション最前線」=マイクロバイオーム(腸内フローラ)研究現場から=
- 講師:西脇森衛氏 農学博士 合同会社みらか中央研究所 マイクロバイオーム・免疫事業ユニット ユニット長
- 開催日時:2019年10月31日(木曜日)18:30~20:30

以上

※ 医療ビジネス研究会へのご参加は受講票が必要です。お手数ですが HP より受講票をご請求ください。